事業所名　放課後等デイサービス　メリー・ハウス

放課後等デイサービス　支援プログラム

法人（事業所）理念	障がい児が、日常生活における基本動作を習得し、及び集団生活に適応することが出来るよう、当該障がい児の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて適切且つ効果的な指導及び支援を行う。
支援方針	1．本人支援 子どもたちの全人格的な発達促進を目的とした随意運動プログラムを基本として支援を実践する。随意運動プログラムにより、外部からの刺激（五感覚情報）を中枢神経に取り入 れ、それを調整して表現できるように支援することで、「生きる力」、「喜びや労することを共有できる力」を育てる。 また、情緒面の安定・知的発達（思考、理解、判断、決断、企画）を促進することを土台として、「友達を作る力」「社会の中で生活が出来る力」「社会の中で自分を出せる力」「考える力」「将来を思い浮かべる力」「聞く力」「待つ力」「健康に過ごす力」「自分の事は自分でする力」「挑戦する力」の育成に努める。 2．家族支援 家族のウェルビーイングを目的とし、保護者の不安や悩み・葛藤について理解することを通して保護者が安心して子育ての喜びや充実感を感じることができるよう支援する。 子どもの障害の特性を探り、かかわりの工夫や信頼関係・愛着関係の形成に向けた支援を行い、親子関係及びきょうだい関係を構築する。 3．移行支援 子どもの成長・発達を支援しながら、ライフステージの変化に伴う保護者の不安の軽減をはかるとともに、学校、就労先との連携をすすめスムーズに移行できるように支援する。 子どもの将来を見据え、「保護者や子どもの意向」を把握するとともに「子どもの特性や能力」「地域の社会資源」の状況を鑑み「子どもの最善の利益」の保障を念頭に丁寧に移行を支援する。 4．地域支援・連携 地域全体で子どもを育てていくために各機関（保育施設・教育機関、公的機関専門職、地域住民）の情報を取り入れ、調整し連携する。

営業時間	10 08	時	0 分から	19 17	時　0 分まで
送迎実施の有無	あり				

		支援内容		
		小学生	中学生	高校生
本人支援	健康・生活	・健康な心と体を育て、健康で安全な生活を作り出すことを支援する。 ・睡眠、食事、排泄、衣服の着脱、身の回りを清潔にするなどの基本的な生活習慣を形成することができるよう支援する。また、健康状態を維持し、生きる力を育て、改善に必要な生活リズムが身につけられるよう支援する。 ・食育の育成、楽しく食事ができる。咀嚼嚥下、姿勢保持、手指の運動機能、目と手の協応、さらに衣服の調整、室温の調整、換気、病気の予防や安全への配慮、支援を行う。 ・自己の行動や感情を調整し、他者に対して主体的に働きかけるなど、生活しやすい環境にするための支援をする。		
		・学校の出欠の確認を始め、活動中の安全確保、健康管理、情緒の安定の確保が出来るよう支援する。 ・事業所の中に居場所を見つけ、安心して事業所に来ることが出来るよう支援する。 ・日々の生活の中でいろいろな体験をし、生活力（我慢するや挑戦するなど）が育つよう支援する。 ・命や自然を大切にする心が育まれるよう支援する。 ・自立する力（衣服の着脱及び調整、排泄、食事など）が身につくよう支援する。 ―遊びの例― ・お店屋さんごっこ、ままごとなど	・早寝早起きなど自分で時間を決めて規則正しい生活が出来るよう支援する。 ・思春期になり、自己肯定感や自己存在感を高め集団の中で居場所を感じ、ともに生活する仲間や支援員との間に自己表現が出来るような平和的で、安定的な人間関係を築けるよう支援する。 ・遊びを通して、人生設計、将来の事を考えるられるよう支援をする。 ・性教育を通して、命の大切さも一緒に相手を大切にすることを教える。 ・買い物や調理活動など生活体験が出来るよう支援する。 ・一日の流れなど自分で生活の時間を考え決めて生活が出来るよう支援する。	・睡眠時間や食事など自分の健康を自分で考え整えられるよう支援する。 ・精神的な安全、健康、安定をつくりだすよう工夫する。 ・困難な状況に適応し、対応できる力が育つよう支援する。 ・社会に出ること、一人で生活する力が身に着くよう支援する ・社会的文化に触れる機会が出来るよう工夫する。 ・事業所での生活を自分たちで組み立て自主的、自治的な生活をおくれるよう支援する。 ・進級する期待感や卒業に向けての気持ちが膨らむよう支援する。
	運動・感覚	・日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持、上肢、下肢の運動・動作の改善及び習得、筋力の維持、強化を図るよう支援する。 ・五感（視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚）及び固有受容覚、前庭覚などの感覚を十分に活用できるよう、遊びなどを通して支援する。情報を収集し、状況を把握して行動が出来るよう支援する。 ・日常生活に必要な移動能力や、事業所外での移動や交通機関の利用など、社会的な場面における移動能力の向上のための支援を行う。 ・感覚の偏りに対する細やかな支援をすることによって子どもの意欲を育てる。		
		・随意運動（粗大・巧緻運動）を複雑化し、さらに仰臥位、体支持などで強化していく。 ・個々の運動発達の遅れを把握し、その子に合った粗大運動をもとに遊び（固定遊具、マット、巧技台、三輪車、フラフープ、なわ、ボールなど）を楽しめるよう支援する。 ・安心できる環境の中で思いっきり体を動かすことが出来るよう支援する。（ドッヂボール、サッカー、野球、バスケット、卓球、鬼ごっこ、陣取り、縄跳び等） ・異年齢児と関わりながら年上の子へ憧れを持ち、活動が出来るよう支援する。 ・伝承遊び（こま、お手玉、けん玉など）	・事業所外での活動に参加し、色々な体験、経験が出来るよう支援する。 ・随意運動プログラムをゲーム化することにより、思考力、理解力、判断力を習得し、子どもの意欲を引き出す。 ・達成感や充実感を味わえるよう支援する。	・随意運動プログラムをゲーム化することにより、思考力、理解力、判断力を習得し、子どもの意欲を引き出す。 ・バス、電車など公共交通機関を利用する体験が出来るよう支援する。 ・店での行動、施設での行動など公共の場での行動が身に付くよう支援する。 ・達成感や充実感を味わえるよう支援する。 ・日常生活に必要な動作を確立し、自分の得意とするものを見つけられるよう支援する。
	認知・行動	・自分に入って来る情報を適切に取得し、処理できるよう支援する。また、こだわりや偏食などに対する支援を行う。 ・過去に取得した情報と現在取得した情報を照合し、環境や状況を把握、理解できるようにするとともに、これらの情報を的確な判断や行動につなげることが出来るよう支援する。 ・物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、大小、数、重さ、空間、時間などの概念の形成を図ることによって、それを認知や行動のてがかりとして活用できるよう支援する。 ・適切な行動への対応の支援を行う。		
		・遊び、生活を通して自主性、社会性、創造性を育めるよう支援をする。 ・善悪があることに気づき、理解しながら行動できるように支援する。 ・公共の場における行動が身につくように支援する。 ・遊びや学びの活動を豊かに作り出す工夫（競争の遊び、模倣遊び、変身の遊び、運遊びなど）や支援をする。 ・さまざまな体験を通して子どもたちの自主性を育て、自発的な遊びができるように支援する。 ・自分で選び、それをやり遂げることで喜びを味わえるよう支援する。 ・健康な体と豊かな感性をもった心を育むよう支援する ・生活の中でのルールを知り、守れるよう支援する。 ・ルールのある遊びを通して役割を理解し、行動できるように支援する。 ・随意運動プログラムを通して空間認知を育み、プログラムに応じて身体を意識的に用いることができるように支援する。 ―製作活動― はさみ、のり、テープ、ホッチキス、カッターなどを使う、ぬりえ、お絵描きなど	・異年齢での遊びを通して、より高度な技の獲得や新しい遊びへ挑む気持ちや、やる気が持てるよう支援する。 ・遊びの選択肢を増やし、遊びのおもしろさと楽しさの追及が出来るよう支援する。 ・事業所内でのルールを中学生から小学生に伝え、守るよう教え、自分も守れるよう支援する。 ・社会のルールを知り、守れるよう支援する。 ・他者の気持ちを理解しつつ、折り合いをつけることを覚えられるように支援する。	・社会のルールを知り、守れるよう支援する。 ・社会に適応できるよう支援する。 ・他者の気持ちを理解しつつ、折り合いをつけることを覚えられるように支援する。 ・その時々に応じて臨機応変に行動できる規範意識をもてるように支援する。
	言語コミュニケーション	・言葉によるコミュニケーションだけでなく、表情や身振り、指差し、サインなどを用いて意思のやり取りが行えるようにする。 ・話ことばや文字・記号、身振り、サイン、指差しなどを用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど言語を受容し表出することが出来るよう支援を行う。 ・具体的な事物や体験と言葉の意味を結び付ける事により、自発的な発声を促し、体系的な言語を身につけることができるよう支援する。 ・人との相互作用を通して、相手と同じものに注意を向け、その行動や意図を理解、推測するといった共同注意の獲得などを含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 ・伝えようとする側と受け取る側との人間関係や、そのときの状況を的確に把握する力、場や相手の状況に応じて、対応できる力が育つよう支援する。		
		・生活の中でよい人間関係ができるように支援員が間に入り、代弁するなどして支援する。 ・自分の考えを表現できる力をつけるよう支援する。 ・遊びの中のトラブルを自分たちで解決できるように支援する。 ・友達と共に過ごす中で、教えたり、教えられたりしながら、他者に対する思いやりの心や信頼関係が育つよう支援する。 ・随意運動プログラムを通して支援員とのコミュニケーションを図り、状況を的確に把握する力を養う。 ―遊びの例― ・家族ごっこで言葉のやりとりを楽しむ ・かるた、しりとり、なぞなぞ、クイズ、歌、文字カードなど	・相手の表情や態度から気持ちを汲み取ることができるように支援する。 ・相手の気持ちに気づき、言葉を選んで話すことが出来るよう支援する。 ・困っている時に助けが求められるよう支援する。 ―遊びの例― ・連想ゲーム、人生ゲーム、手紙を書くなど	・相手の気持ちに気づき、言葉を選んで話すことが出来るよう支援する。 ・相手の表情や態度から気持ちを汲み取ることができるように支援する。 ・自分の行動、言動に責任をもって発言、行動できるよう支援する。 ・困難な状況になった時に助けを求められるように支援する。
	人間関係社会性	・子どもが人や自分に対する安心感・信頼感が持てるよう、環境を整え支援をおこなう。自身の感情が崩れたり、不安になった際に、支援員が相談にのることで、安心感を得たり、自分の感情に折り合いをつけたりできるよう支援する。 ・遊びを通して人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。 ・運動機能及び感覚機能を使った遊びから、見立て遊び、つもり遊び、ごっこ遊びなどの象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 ・一人遊びから並行遊び、大人が介入して行う連合的遊び、役割分担遊びをする中で、ルールを守って遊ぶ共同遊びへと徐々に発展させ、「理解力」「判断力」「決断力」などを育み、社会性の発達を支援する。 ・自分の出来る事や苦手な事など情動の調整が出来るよう支援する。 ・集団に参加するための手順やルールを理解し、子どもの希望に応じて、遊びや集団活動に参加できるよう支援するとともに、共に活動することを通じて、相互理解や互いの存在を認め合いながら、仲間づくりにつながるよう支援する。		
		・子ども同士の関わりの中で仲間と生活する楽しさを実感し、自己肯定感を育むことができるよう支援する ・遊びを通して仲間と協力することや思いやりの気持ちを育むことができるよう支援する。 ・失敗しても大丈夫という子ども同士の関係づくりが作れるよう支援する。 ・異年齢児との交流を通してお互いの気持ちを伝えたり、仲間と協同したりすることの楽しさを感じる。また、人を大切にする心を育てることができるよう支援をする。	・子ども同士の関わりに重点を置いて、仲間同士の関係が深められるよう支援する。 ・仲間とともに過ごす、心地よさを感じられるよう支援する。 ・苦手な事にも挑戦できるよう支援する。 ・公共のマナーについて理解できるように支援する。	・周りの事も考えて行動できるよう支援する。 ・一人一人の子どもが、仲間から認められるよう支援する。 ・困ったことがある時、悩んでいる時など身近な大人に相談が出来るよう支援する。また相談が出来る友達、仲間を作れるよう支援する。 ・公共のマナーが身に付き、確立できるよう支援する。

家族支援	・子どもが家族や周囲の人と安定した関係を形成するための支援。 ・家庭の子育てに関する困りごとに対する相談援助。 ・子どもの発達上の関わり方、助言、提案。 ・安心して預けられるよう家庭訪問や面談を通して事業所での様子を伝える。 ・家族のレスパイトの時間の確保や就労などの預かりニーズに対応する。	移行支援	・子どもが通う予定の学校への移行や将来的な移行を見据えた支援方針、支援内容の共有や子どもの状態・親の意向・支援方法について伝達、情報共有する。 ・受け入れ態勢づくりへの協力。進路など本人や家族への相談。 ・放課後等デイサービス支援計画の作成または見直しに関する会議を開催する。 ・進級、進学、就労に向けて、子どもの不安を受けとめ心の安定をはかり、期待とあこがれの気持ちを大切にできるよう支援する。
地域支援・地域連携	・子どもが通う予定の学校との情報連携や調整、支援方法や環境調整に関する相談援助。 ・子どもを担当する保健師や子どもが通う医療機関等との情報連携や調整。 ・虐待が疑われる場合は、児童相談所や子ども家庭センターとの情報連携。 ・民生児童委員、主任児童委員等地域の関係者との連携。会議の開催。 ・地域行事に参加することで、公共マナーが身につけられるよう支援する。	職員の質の向上	・子どものウェルビーイングを目指した理念の共有を図る。 ・必要な知識、技術を習得し、それらのスキルを維持・向上するように努力する。 ・遊び自体の中に子どもの成長・発達を促す重要な要素が含まれる随意運動プログラムを実践する。挑戦や失敗を含め屋内外を問わずに自由な遊びを行い、体験したことや興味を持ったことに取り組める機会を工夫する。 ・日常生活における基本的な動作や自立を支援するための活動を工夫する。子どもが意欲的に関われるような遊び、成功体験の積み増し、自己肯定感を育めるよう支援する。社会性を育て、将来の自立や地域活動を見据えた活動を工夫する。
主な行事等	もちつき・豆まき・クリスマス・夏祭り		